

2009年度（平成21年度）事業報告書

2009年4月1日～2010年3月31日

2010年6月19日

認定 特定非営利活動法人
C. P. I. 教育文化交流推進委員会

[総括]

1. 教育里親制度プログラム（定款第七条1項1号）

(1) 貧困家庭にある優秀な学生への教育支援

① スリランカ SNECC との協働（P4 に詳細）

教育里子数 674 名（前期 774 名）に対し、教育里親口数 653 口（前期 673 口）で 1,490 万円の教育支援を行った。また、卒業里子の活動費に 9 万円を支援した。

（注）9 年生 60 名、10 年生 143 名、11 年生 3 名、12 年生 199 名、13 年生 190 名（2010 年に初の AL 試験）、13W 生（2010 年に再度 AL 試験）79 名。

② インドネシア PPKIJ との協働（P5 に詳細）

教育里子数 270 名（前期 264 名）に対し、教育里親口数 234 口（前期 243 口）で 550 万円の教育支援を行った。PPKIJ 調査等活動に対しては 253 万円インドネシア特別会計から支援した。

（注）中学 3 年生 37 名、高校 1 年生 73 名、高校 2 年生 48 名、高校 3 年生 61 名、大学 1 年生 29 名、大学 2 年生 22 名。

(2) 教育里親に対する里子の状況報告

① スリランカ——OL 試験結果・AL 試験結果・年末報告および現地会報の発行を行った。

② インドネシア——年末報告および現地会報の発行を行った。

(3) 会員に「教育支援」の成果を実感して戴くよう努めた（P4-5 に詳細）

年末の教育里子報告に加え、会長が昨年度に続き地域巡回をして、教育里親—里子を繋ぐ手紙・インタビュー報告をまとめた。

スリランカは 2010 年 1 月 15 日から 27 日にかけて 33 地域、インドネシアは 2009 年 10 月 26 日から 12 月 7 日および 2010 年 3 月 31 日の二回に分けて全 37 地区の教育里子と会合を行った。なお、インタビュー報告および教育里子からの署名入り写真等を会員にお送りした。

（今回面会できなかった里子に対しては、引き続き巡回し報告する）

(4) 里子卒業生など現地の人々による教育里親の発掘（P5 に詳細）

① スリランカでは、200 名の現地教育里親を得て、同数の教育里子を支援している。

② インドネシアでは、里子卒業生会を立ち上げ、指導している。

2. 教育里子卒業生との、人々の自立を助ける活動（定款第七条1項2号）

(1) スリランカにおける実務学校への進学支援活動（P6 に詳細）

OL 課程を卒業しながら AL 課程に進まなかった学生で、実務学校に行く意志の強い者につき、SNECC が家庭状況その他の査定を行った上で支援を行った。

（教育里親支援とは別で、資金を SNECC が捻出）

(2) インドネシア市民協力催事を開催した成果（P6 に詳細）

① PPKIJ がチアンジュールの能力開発センターにおいて正規のコミュニティカレッジを開設し、C.P.I. は、新施設建設のため青年活動&スポーツ省の無償援助取り付けに成功した。

② 中部ジャワ震災後、公的支援がないため困窮している母子家庭救援のチャリティ募金活動を、日本国内とインドネシアで実施。プロジェクト立上げ資金 803,660 円を確保した。

3. 教育里子たちとの交流活動（定款第七条1項3号）

(1) スリランカへの里親—里子交流ツアーを実施（P6 に詳細）

8 月 27～9 月 3 日に会員等 11 名で実施（団長：牟田理事）。新規会員を得ることができた。

(2) インドネシア協力学校への『折紙テキスト』の頒布（P7 に詳細）

日本の教育文化を学んでもらう活動を日本折紙協会と協働し、2009 年度期末時点で協力学校 200 校への頒布を開始した。

4. 予算の執行状況

- (1) 教育里親口数は、期首 877 名、期末 841 名であった。(期中退会 52 名、新規入会 16 名)
 ※期中教育里親口数に、教育支援実施は 2010 年度からの 6 名と、納入遅延者を含む。
- (2) 賛助支援会員は、当期 81 名であった。
- (3) 特定非営利活動に係る事業の、一般会計における当期予算に対する実績は、以下の通り。

収 入	2009予算(千円)	2009実績(千円)	2009 実績備考
入会金・正会員会費	11,000	10,465	教育里親 実口数 887
スリランカ教育支援金収入	16,000	15,301	スリランカ教育里親 実口数 653
インドネシア教育支援金収入	6,000	5,557	インドネシア教育里親 実口数 234
賛助寄付金	1,200	1,006	
スリランカ活動特定寄付金	180	0	特別会計拠出する
インドネシア活動指定寄付金 (注 1)	100	921	
一般寄付	1,000	718	会員からの寄付
国際協力応援団寄付	1,600	1,177	インドネシア母子家庭救援募金含む
教育開発事業(青年省)収入	300	1393	インドネシア政府青年省の委託
運営財産利息収入(国内)	50	1	国内銀行利息
当 期 収 入	37,430	36,539	
支 出	2009予算(千円)	2009実績(千円)	備 考
事業管理費(給与・事務所維持・事務経費)	10,000	10,159	
スリランカ教育里親制度プログラム(直接援助)	13,000	13,000	
スリランカ教育里親制度プログラム(調査等費用)	3,000	1,990	
スリランカ特別会計拠出	380	0	
インドネシア教育里親制度プログラム	6,000	5,500	
インドネシア特別会計拠出(注 2)	1,010	2,554	
海外出張費	1,150	943	
国内出張費	150	63	
総会関連費用	300	370	遠方の評議員の交通費等
地域会活動補助	200	50	
広報・報告費(注 3)	1,200	1,969	会報・現地報告・里子報告ほか
IT 広報経費(サーバー・プロバイターなど経費)	350	384	
予備費	690		
当 期 支 出	37,430	36,982	
当 期 収 支 差 額	0	-443	

注 1:2009 実績のインドネシア活動特定寄付金 921,164 円は、P2-3-(2)に掲載した日本折紙協会との協働による「折紙テキスト」の協力学校への頒布協賛金である。

注 2:インドネシア特別会計への拠出は、上記特定寄付金および国際協力応援団寄付内インドネシア母子家庭救援募金の三分の二(570,000 円)ならびにインドネシア政府青年省との協働収入から 1,063,000 円。

注 3:2009 実績の報告・広報費のうち 987,578 円は、公認会計士 10,000 名への会員訴求費用。当面の成果は 22 の事務所からの寄付 192,309 円であり、なお一層の波及効果をあげるべく継続訴求中である。

《前記2『教育里子卒業者との、人々の自立を助ける活動』に係る説明》

卒業奨学生との会合の中で、多く次のような意見を聞く。

「自分は高校時代に、学べる限りの技術を習得した。上の学校には行かず、育った地域に留まり地域経済を改善したいが、未だ技術的に不足していることを痛感している」

このような青年は、①大企業のない地域の工場や②農山村、漁村地域に多い。

① に関しては、より高い技術の習得に手を貸す仕組みが必要である。

② に関しては、その地域の産物の質の向上や輸送などの向上が求められる。生鮮品の運搬や市場アクセスに係るコミュニティカレッジあるいは専門家によるコンサルティングが必要である。

また、震災後の地域では、「母子家庭の救援が必要だ。既存の農業技術を母親に教え、売り場を設けるなどの支援を地元の NGO が行っているが、母親たちは年齢が高く効果が薄い。自分たちが効率よい技術を学んで、彼らを支援したい」との意見が聞かれる。

これに関しても、上記の②が効果的と考えられる。

これらの課題への取り組みに協力することは必要だ。

前記2で報告した活動は、その端緒にすぎないが、2010年以降は次の段階に進める。

[詳細資料]

1. 教育里親制度プログラム (定款第7条第1項第1号)

(1) スリランカ協力団体 SNECC との協働

教育支援の明細

(付表-1) SNECC への教育支援金の計画と実績 (単位:千円)

	2008年	2009年		備 考
	実績	計画	実績	
里親数/CPI 里子数(人)	673/774	680/680	653/674	
学用品費				学用品: 制服、ノート、かばん等
毎月支給奨学費				補習クラス、特待生補助、通学バス、薬代等
年内支給奨学費				研修旅行費、通学靴、制服仕立費、写真代等
(小計①)	(13,884)	(13,000)	(13,000)	教育里親からの支援金により賄う
地域ボランティア費				地域センターの日常活動実費補助
調査・報告作業費				SNECC による教育里子選考・日常把握・報告等活動費
(小計②)	(3116)	(3,000)	(1,990)	不足分を現地協力団体 SNECC が負担
合計	17,000	16,000	14,990	(登録会員 653 名中、年度内未納入 31 名があったため)

① 教育里子の試験結果および学年末の状況を、12月・2月・6月に教育里親へ報告した。

② 会長が、以下の目的で教育里子地域を巡回した。

(a) 教育里子に教育里親の気持ちを伝える

(b) 里子の実態レポートおよび現地会報『ステューティ』を作成する

(c) 教育里子からの手紙および署名入り写真を教育里親に送る

③ スリランカ国内で教育里親制度を推進

SNECC と協議のうえ、2007 年度～2008 年度に卒業里子会に働き掛け、スリランカ国内での教育里親制度推進に努めてきた。その結果、2009 年は 50 の地域センターで 200 名に近いスリランカ人の教育里親ができた。このうち里子卒業者は、100 名を超えている。

(2) インドネシア協力団体 PPKIJ との協働

教育支援の明細

(付表-2) PPKIJ への教育支援金の当期計画と実績予想 (単位:千円)

	2008 年	2009 年		備 考
	実績	計画	実績	
里親数/里子数(人)	243/264	260/260	234/270	
中学生学費	251		317	学費の支援
高校生学費	2,456		2,113	
中高生試験費	169		56	中高生試験費、卒業試験費の支援
大学生学費	907		728	大学1、2年生までの学費支援
教育里子会の活動	1,062		1,178	教育里子の集会・彼らの社会活動などを支援
調査・日常把握等	1000		822	地域リーダー・アシスタント電話・郵送・交通費等実費
電話・郵便・交通費等				現地の地域経費
(小計)	(5,845)	(6,000)	(5,214)	教育里親からの支援収入により賄った
卒業生会活動	(補助金)	(補助金)	286	
調査等活動実費	2,666	2,500	2,534	インドネシア内運用利息収入により賄った
合 計	8,511	8,500	8,034	

① 教育里子の 12 月時点での状況を、教育里親に報告した。

② 会長が、教育里子地域を巡回した。

スリランカと同様の目標で実施 (現地会報名は『クルアルガ』)。

③ 地域リーダーと卒業生会との協力で、教育里子への面接を行った。

2008 年に開始したインタビューレポートの作成過程で、新規里子の選考に必要なデータの改善の必要性が発見され、現・教育里子に係る詳細なデータの収集を行った。

(3) インタビューレポート交換を、卒業生会の協力を得て進めた

スリランカ、インドネシアの両国とも、教育里親・里子の双方に地域や家庭の状況を知りたい要望が強くあることから、インタビューレポートの交換推進を図った。

スリランカからは活動的な卒業生の協力を得て二回にわたり、全里子の 9 割近い 600 名を超えるレポートを翻訳して里親に送ることができた。

インドネシアからも、7 割、200 名を超えるレポートを里親に送った。

一方、日本側からは、同じくアンケート書き込みのやり方で里子へのレポートをお願いしたが、現地側に比べてはかばかしくなかった。

2. 教育里子卒業者との、人々の自立を助ける活動（定款第七条1項2号）

(1) スリランカにおける実務学校への進学支援活動。

OL課程を卒業しながらAL課程に進まなかった奨学生卒業者で、実務学校に行く意志の強い者につき、協力団体SNECCが家庭状況その他の査定を行った上で支援を行う。

以前は教育里親支援で行っていたが、実行過程で里親制度になじまないため、資金をSNECCが捻出して別プログラムとして行うこととなった。

(2) インドネシア市民協力催事を開催した成果

2009年にも事務局を担った「日本—インドネシア市民協力フェスティバル」は、国内外に反響を呼び、現地政府の「青年の能力を高める」方針と合致するとの評価を得たこと、日本国内での協力団体を得たこと（日本折紙協会、国際サービスエージェンシー等）で、具体的に①および②の成果につながった。

① C.P.I-PPKIJの能力開発センター（チアンジュール）の新施設建設

インドネシア政府青年活動&スポーツ省の全面的支援により2010年3月18日に竣工した。約500万円の助成金に相当する。

新施設では、社会人の能力開発教育を行い、旧施設は2009年に設立したコミュニティカレッジの性格をもつ高校に使用する。

同センターの共同設立者として関わってきたC.P.I.としては、在インドネシア日本人の専門家との協力等を通じて、ジャカルタ施設とチアンジュール新施設を活用しつつ、今後、日本—インドネシアの「能力開発での架け橋」を担う。

② 母子家庭救済チャリティに803,660円の活動募金を戴いた。

当会は、地震被災後の母子家庭の課題を能力開発により解決に向かわせたいと考え、資金を得るため日本国内及びインドネシアにおいて募金活動を行った。

会員からの当該寄付および8月の催事（於東京：市民協力フェスティバル）での寄付から570,000円、日本折紙協会の制作協力を得た『折紙テキスト（インドネシア語を含む4カ国語）』頒布寄付（対：現地学校）から必要経費を除いた233,660円、合計803,660円を得た。女性組合(KOPEWANI INDONESIA)の協力で、母子家庭の持続的収入の向上を図る。

3. 教育里子との交流活動（定款第7条第1項第3号）

(1) スリランカ

① 里親—里子交流ツアーを行った

8月27日～9月3日、教育里子および卒業生との交流を実施した。

詳細は、『ステューティ』第9号に記載した。

② スリランカ教育里子の来日交流プログラムは中止した

9月4日—14日の間、SNECC内の文化交流基金を用いて教育里子代表が数名来日した。

計画では、C.P.I.で5日～11日の間、会員および一般市民との交流の場をつくる予定であったが、SNECCとの協議が整わず、準備に無理が生じると判断して中止した。

④ C.P.I.現地事務所発、里子新聞の発行を行った（定款第7条第1項4号とも）

『ストゥーティ』第9号を発行し、教育里子たちの現状を一般に広く知らせた。

(2) インドネシア

- ① C.P.I. 現地事務所発、里子新聞の発行（定款第7条第1項4号とも）
『クルアルガ』第7号を発行し、教育里子たちの現状を広く一般に伝えた。
- ② インドネシア協力学校への『折紙テキスト』の頒布を通じて日本の教育文化を学んでもらう活動を日本折紙協会と協働。2009年度期末時点で200校への頒布を開始した。

4. 2009年度 県別教育里親登録口数 推移表（期末現在）

（INはインドネシア、SLはスリランカ）

県別	期首	新規	退会	期末	IN	SL
北海道	22	2	2	22	4	18
青森	5		0	5	1	4
岩手	1		0	1	0	1
宮城	7		0	7	3	4
秋田	3		0	3	1	2
山形	5		1	4	0	4
福島	12		2	10	4	6
茨城	37		3	34	8	26
栃木	7		1	6	1	5
群馬	8		0	8	3	5
埼玉	64		2	62	16	46
千葉	72		5	67	26	41
東京	242	3	14	231	67	164
神奈川	125	1	5	121	27	94
新潟	8		1	7	1	6
富山	0		0	0	0	0
石川	2		0	2	0	2
福井	2		0	2	0	2
山梨	10		1	9	4	5
長野	13		2	11	3	8
岐阜	6		0	6	3	3
静岡	30		3	27	6	21
愛知	5		0	5	1	4
三重	4		0	4	1	3

県別	期首	新規	退会	期末	IN	SL
滋賀	4		0	4	2	2
京都	8		0	8	1	7
大阪	27		0	27	4	23
兵庫	14		0	14	1	13
奈良	7		0	7	1	6
和歌山	1		0	1	0	1
鳥取	3		0	3	0	3
島根	2		0	2	2	0
岡山	5	2	0	7	4	3
広島	2		0	2	1	1
山口	4		0	4	2	2
徳島	2		0	2	0	2
香川	0		0	0	0	0
愛媛	0		0	0	0	0
高知	1		0	1	0	1
福岡	58	4	4	58	16	42
佐賀	0		0	0	0	0
長崎	3		0	3	1	2
熊本	11	1	1	11	2	9
大分	17	3	4	16	5	11
宮崎	7		0	7	1	6
鹿児島	1		0	1	0	1
沖縄	7		0	7	1	6
海外	3		1	2	1	1
	877	16	52	841	225	616